ニューズレター

発行：水資源・環境学会

NEWS LETTER　No.34

2003年7月1日

目次：

2003年度 夏季現地研究会ご案内　1

2003年度 冬季研究会ご案内　2

2003年度 研究大会のご報告　2

2003年度 総会の概要　4

新規加入会員案内　6

事務局からのお知らせ　7

2003年度　夏季現地研究会
四万十川～流域紀行～

先にご案内しました「中国視察」は、ＳＡＲＳ騒動のため急遽取り止め（ホームページで通知）、再検討しましたところ、わが国の河川のありかたをめぐって揺れ動くなか、泰然としている四万十川をまるごと現地視察し、関係者との研究交流を深めようと計画しました。最後の清流といわれている四万十川を上流から下流へ、大きくまた小さく蛇行し変化する風景を楽しんでいただくとともに、人と水とのかかわりを実感していただければ、すばらしい夏の研究会になることでしょう。みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

水資源・環境学会　研究大会事務局

【スケジュール】

２００３年８月４日（月）～６日（水）

４日（月）午後　高知県庁　現地集合
高知県庁（四万十川流域保全、森林環境税）
梼原町宿泊（民宿、温泉）

５日（火）午前　四万十川源流、四国カルスト(風力発電)
午後　梼原町役場（国際基準の森林認証）
四万十川下り（沈下橋、カヌー風景）
中村市宿泊（保養センター、温泉）

６日（水）午前　四万十川下流視察
「トンボ王国」
午後　ＪＲ「中村駅」現地解散

注）１　高知県庁からＪＲ「中村駅」の区間はレンタカーで移動します。
２　**宿泊所は予約済です（１５名分）。**
３　参加申込者には、詳細スケジュールをお送りします。

【費　用】

２万円程度（２泊朝夕食代等でレンタカー、昼食、飲料等の各費用は含みません）

【申込締切】

宿泊準備のため、下記の期日までにお申し込みください。

平成１５年７月２６日（金）

【申込・問合せ先】

企画担当：若井　郁次郎（大阪産業大学　人間環境学部　都市環境学科）
電話：０７２－８７５－３００１（代表）内線７７５４
ファクシミリ：０７２－８７１－１２５９
E-mail：wakai@due.osaka-sandai.ac.jp

2003年度冬季研究会のご案内
－水法を総合的に考える－　第一報

今年度の冬季研究会では、水循環の視点より「水法を総合的に考える」をテーマに研究会を開きたいと考えています。人類は、水とともに生まれ、発展してきたことは周知されています。近代においては、水の厳密な管理のため各種の水法が整備され、各管理者により河川や湖沼で利水と治水の効率性だけが追求されてきた観があります。最近では、水域の自然多様性や水のもつ効用を高めるため河川法の改正が行われ、流域管理の必要性より各地で流域委員会がもたれ、幅広く意見を反映する動きが報じられています。しかし、水は循環します。この自然の動きを再認識し、雨水、地表水、地下水までも含め、連続する水の総合管理がより重要であると思われます。そこで、現行の水法を総合的に再考し議論する場を設け、得られた成果は春季研究大会へとつなげたい、と考え企画しました。詳細については、次号のニューズレターでお知らせしますが、時期は2004年2月中旬から3月上旬を予定しています。
現行の水法にかかわる問題点や論点について、会員からの発案を歓迎します。ぜひお寄せください。

水資源・環境学会2003年度研究大会（第19回大会）報告
大会テーマ：地域社会と水環境

西田一雄（㈱地域環境システム研究所）

第19回研究大会は、6月14日、東京都墨田区のすみだ中小企業センターで開催され、参加者延べ２６名の参加により盛況のうちに、当初プログラム通りに無事終わりました。午前は、雨水資料館の見学と記念講演を催し、引き続いて学会総会をおこないました。午後からは、基調講演及び4名の研究発表、総合討論となり、有意義な議論が交わされました。その後、中小企業センター内のレストランにおいて懇親会を行い、発表者、参加者の交流がなされ、次回研究大会の成功、学会の発展を願い散会しました。

1．雨水資料館見学会

午前9時30分に集合して、センターから徒歩4分にある雨水資料館を見学しました。記念講演者の村瀬誠氏より、資料館に展示された事物に関する説明を受けつつ館内を一巡しました。雨水の集め方、天水尊、路地尊といった地下水利用の特異な工夫や雨水関連資料が展示されているほか、水に関する世界各地の民族資料も展示されており、世界地理のなかで水に関する事象を学べるようになっています。各種の植物の種を筒にいれて、揺らすと雨の音が聞こえてくる展示物は、本来雨乞いのために用いられたとのことですが、サウンドスケープを巧みに利用している点は大いに興味を引くところでした。雨水資料館は、もとは小学校の校舎でしたが、水の利用に関する展示施設として再利用されているのは、他の地域にとっても参考となる事柄でした。

2．　記念講演

「革新的スカイウォータープロジェクト」

ドクトル雨水と親しまれ、世界に雨水利用を普及する活動に活躍されている村瀬氏の講演は、刺激的で今後の水資源開発に新たな発想を提供するお話でした。都市の雨水がこれまで、排水として捨てられた結果、都市の洪水、ヒートアイランド化が進んでいる現状を写真で紹介しながら、今後は、貴重な資源として貯留することの重要さを強調され、墨田区の浸水対策の一環としてわが国で最初に雨水貯留施設を整備した建築物である、蔵前国技館の建替え当時に始まり、近接する江戸東京博物館、最近の東

京ドームでの雨水貯留施設整備の苦労話は、印象的でした。近年の異常気象の結果、時間100㎜を超える集中豪雨がきたら都市での地下街水災害では、悲惨な結果を招く懸念があり、我が国でも、さらに普及を急ぐ必要があることを事例で紹介され、緊急性が、実感できた。また、バングラディシュでの雨水貯留施設の普及や、韓国のサッカースタジアムで既に雨水貯留が普及しつつある状況から、今後は、世界の水資源として捨てるのではなく、活用する考え方をもっと普及する必要があり、都市部では、すべて、雨水は、捨て、水道による上流の遠い水を利用しているのは、矛盾である。水道水も元は、上流域に降った雨水であり、わざわざそれを川から引いて市民が使うことという考え方に矛盾がある事を指摘し、雨水利用の重要性を協調された、興味深い講演でした。

3．基調講演「まがりかどにきた水資源開発ー「近い水」対「遠い水」ー」

基調講演の森滝健一郎氏は、今年の2月に講演タイトルと同様のサブタイトルを付けた著書「河川水利秩序と水資源開発」（大明堂）を出版された。講演内容は、この著書に沿いながら、氏のこれまでの長年にわたる河川水利秩序の研究を総括的にまとめて、河川水の利用に関する問題点を簡潔に解説し、水資源を利用する側からダム開発に痛烈な問題提起を行う内容であった。「近い水」として、都市での生活用水、工業用水、近郊の農業用水を位置付け、「遠い水」として上流からの取水や、ダム開発による都市用水、工業用水、農業用水を位置付けて、問題の本質を理解しやすく展開している。問題の本質は、「近い水」を疎かにし「遠い水」を過剰に開発してきた水資源開発の考え方と、水利用形態が課題だとし、「近い水」を利用する正常な水循環システムに戻す対応が必要だと強調した。特に、「特定多目的ダム法」制定以降の水利用は、各界の「浪費」による過剰な「水不足」に依存しており、その後のダム計画もこの考えの延長によって、形成されたもので、「近い水」の放棄によって「遠い水」の乱開発となった。また、水源の水環境は、農業者、漁業者といった、水の利用者が、「利用しながら保全する」ことにより守られてきたことをアンケート結果のデータで示し、監視する主体の存在が「近くの水」を守ってきたが、広域水道の「遠い水」の整備が地域の水環境を保全していたシステムを崩壊させかねないと警告している。そして、最後に1999年に計画された「ウオータープラン21」、国のダム開発見直しの論議、川辺川ダム裁判での合意の違法性、水道事業民営化の論議等から水政策は、曲がり角にきたかに見えるが、「近い水」の利用に注目する流れには必ずしもならないとし、今後の展開に注目すべきであるとして、講演を締めくくった。

午前の記念講演テーマの雨水利用は、「近い水」と考えられ、ともに身近に存在する水と水利用の市民権を大切にすることが、水不足、水災害、水利秩序の保全を解決することになると述べられたように感じた。

4．研究発表

研究発表者は、４名で、秋山氏（滋賀県立大）の座長によりプログラムどおり進められた。

第１発表は、横山俊一氏(立正大･研究生)による「秋田県玉川における水利と水利用の展開」である。火山性の酸性水が河川に流入し、飲料水、農業被害への歴史的な酸性水対策を論述した発表であった。現在の酸性河川対策が、今後の水環境や、水利用に新たな課題を発生させていることが指摘された。

第２発表は、田渕直樹氏（天竜川漁協アドバイザー）による、「遠州の水環境と市民運動ー天竜川漁協の活動を中心にー」である。天竜川にあるダム郡をめぐるダム堆砂問題、濁水問題、魚の遡上阻害問題、河川改修問題と多様な問題が絡む中、天竜川水系流域委員会が設置されたが、官製の方向に結論が導かれようとしており、漁業者、市民の利益と自然の保全を目指した市民活動の新たな展開をしたい思いと決意が語られた、発表であった。

第３発表は、平井拓也氏（㈱地域社会研究所）による「一自治体が取り組む円滑な雨水利用の普及･促進に向けての考察」である。防災目的、水利用目的で、雨水貯留施設の整備が進んでいるが、市街地の雨水を排除だけでなく、多様な利用を促進する方が有効ではないかという問題意識から考察された発表であった。京都府下のアンケート結果の考察から雨水利用の意識や施設整備の実態を解明し、今後の普及に関する助成制度や課題について整理した発表であり、記念講演のテーマを補完するものであった。

第４発表は、松尾瞳美氏（アミタ㈱）による「地方自治体におけるIS09001とIS014001の取得効果に関する研究」である。この発表は、昨年度卒業研究に基づく報告書を再編集した発表であり、３６自治体にアンケートした結果の考察である。主として、情報公開の仕組みが、IS0規格に有ることを根拠に、各自治体の情報公開や、市民とのコミュニケーションの実態とIS0の持つ取得効果を分析し、IS09001とIS014001の比較を試み取得効果の優位を判定しようとするものであった。アンケート結果として、住民の積極性によりIS0の効果の出現も異なり、住民が積極的な働きをする自治体では、IS014001の方が、有効なコミュニケーションが実現できるとなった。また、顧客満足の視点がIS09001にあることから、IS09001取得の自治体には、行政実態に大きな変化が見られたとことが報告され、結論として、IS09001の方が、住民にとって有効に働きやすいと考えられるが、費用や、コミュニケーション運用面からは、IS014001も活用できると報告された。

5．懇親会

１7時から同センター２階のレストランにおいて２２名の参加で大変盛り上がった懇親会となった。板橋元会長の乾杯の音頭で開始され、円テーブルに４～５人が集まり、研究大会の延長のように各テーブルで、議論が活発となった。アルコールが進み、話も一段と賑わい、楽しい交流の宴となった。早く退席される人もおられたが、概ね１９時３０分頃まで、懇親会がつづき、なごりを惜しみながら解散となった。

2003年度総会の概要

去る2003年6月14日に開催された大会とあわせて、学会総会がもたれました。総会では以下の議案が審議され、議決されました。しかしながら、当日に総会資料が準備できておらず、口頭での報告となり皆様に大変ご迷惑をおかけ致しました。深くお詫び申し上げるとともに、改めてご報告を申し上げます。
（水資源・環境学会　事務局）

第1号議案　2002年度事業報告

2002年度の研究事業として以下の事業の報告がありました。

１）　研究事業

2002年6月1日　研究大会
テーマ「人間生活と水」
大学コンソーシアム京都

2002年8月3～4日　夏季研究会
「神岡鉱山立入調査」

2003年1月31日
世界水フォーラム協賛シンポジウム
「コミュニティから
健全な水循環をデザインする」

2003年3月1～2日　冬季研究会
「国際的な水問題・地域的な水問題」

２）　学会誌事業　『水資源環境研究』vol.15の発行

３）　広報事業　ニューズレターの発行（3回）
ホームページの運営

４）　その他

第2号議案　　2003年度事業計画

今年度の事業計画として3種類の研究事業と学会誌の発行、広報事業が提案され、了承された。

1）　研究事業
　2003年6月14日　研究大会
　　テーマ「地域社会と水環境」
　　すみだ中小企業センター
　2003年8月　　夏季研究会「四万十川」
　2004年3月　　冬季研究会
2）　学会誌事業　『水資源環境研究』vol.16の発行
3）　広報事業　　ニューズレターの発行（3回）
　　ホームページの運営
4）　その他事業

第3号議案　2002年度決算報告

下表のように2002年度会計報告がなされ、宮崎淳、原口宏房監事よりの監査報告が代読され、了承された。（表１参照）

第4号議案　2003年度予算案

今年度の予算案は事業別予算として提案され、了承された。

収入

個人会員	１３５	@¥5,000	¥675,000
学生会員	8	@¥3,000	¥24,000
法人会員	5	@¥30,000	¥150,000
前年度余剰金繰り入れ			¥76,508
合計			**¥925,508**

支出

1．	研究事業		
	会議費	会場借上	¥20,000
	事務費	消耗品	¥10,000
		賃金	¥12,000
2．	学会誌事業		
	印刷費	学会誌印刷	¥660,000
	通信費	郵送料	¥40,000
3．	広報事業		
	通信費	郵送料	¥35,000
	事務費	消耗品	¥10,000
4．	事務局経費		
	会議費	会場借上	¥45,000
	(2002年度未払い分¥15,000含む)		
	通信費	郵送料	¥15,000
	事務費	消耗品	¥30,000
5．	その他		
	予備費		¥48,508
	合計		**¥925,508**

第5号議案　2003年度役員候補案

2003年度の役員として、理事、顧問、監事に以下の会員が選出された。

理事
- 秋山　道雄　滋賀県立大学環境科学部
- 足立　考之　内外エンジニアリング㈱
- 伊藤　達也　金城学院大学現代文化学部
- 井上　秀典　明星大学経済学部
- 大橋　　浩　（株）地域社会研究所
- 荻野　芳彦　大阪府立大学農学部
- 小幡　範雄　立命館大学政策科学部
- 國松　孝男　滋賀県立大学環境科学部
- 菅原　正孝　大阪産業大学人間環境学部
- 高橋　卓也　滋賀県立大学環境科学部
- 立川　　涼　愛媛県環境創造センター所長
- 千頭　　聡　日本福祉大学情報社会科学部
- 土屋　正春　滋賀県立大学環境科学部
- 仲上　健一　立命館アジア太平洋大学
- 西田　一雄　（株）地域環境システム研究所
- 仁連　孝昭　滋賀県立大学環境科学部
- 野村　克巳　京都市水道局
- 畑　　明郎　大阪市立大学商学部
- 花嶋　温子　大阪産業大学人間環境学部
- 宮永　昌男　京都創成大学
- 三輪　信哉　大阪学院大学国際学部
- 盛岡　　通　大阪大学工学部
- 森滝健一郎　岡山大学名誉教授
- 安本　典夫　立命館大学法学部
- 若井郁次郎　大阪産業大学人間環境学部
- 渡辺　紹裕　総合地球環境学研究所

顧問
- 板橋郁夫
- 河野通博
- 末石冨太郎

監事
- 原口宏房（平成国際大学）
- 富岡昌雄（滋賀県立大学）

第3号議案・表１

収入

内訳		
繰越金	2001年度より	1,471,848
会費収入		717,990
学会誌	学会誌販売	4,500
	要旨集販売	8,000
その他	第17回研究大会残額	76,684
	合計	¥2,279,022

支出

内訳		
研究事業	会議費	81,075
	事務費	18,270
学会誌事業	印刷費	546,630
	通信費	20,680
広報事業	通信費	34,080
	事務費	3,822
事務局経費	会議費	10,000
	通信費	11,100
	事務費	42,835
	合計	¥768,492
2003年度へ繰越		¥1,510,530

～新規加入会員案内～

●法人会員

敬称略

会員名	所　　属	専門分野等
佐田麻理子	臨川書店	

●個人会員

敬称略

会員名	所　　属	専門分野等
吉田　充夫	国際協力事業団 国際協力総合研修所	開発途上国における水資源問題
楊　　軍	立命館大学大学院政策科学研究科	日本企業における環境マネジメントシステム･監査 環境コミュニケーション手段としての環境報告書の現状と展望

知り合いの方にぜひ、水資源・環境学会への入会をお勧め下さい。

学会事務局からの案内と連絡

■原稿募集！

学会誌「水資源・環境研究」への投稿を募っております。2003年は世界水フォーラムも開催され、環境をめぐる国内外の動きは大きな節目をむかえるともいえるでしょう。次号の内容をさらに充実させるべく、皆さまのご投稿をお待ちしております。
次号の締め切りは、８月３１日です。投稿規程や執筆要領は学会誌の巻末にあります。投稿希望の方は、裏面のエントリーシートを下記担当理事までご送付下さい。お問い合わせなども下記までご遠慮なく！

□学会誌編集担当・事務局　　野村　克巳
連絡先（自宅）　〒659-0012　芦屋市朝日ケ丘町8-7-610
電話＆ＦＡＸ：0797-34-4785　　E-MAIL：nomnom@hi-ho.ne.jp

■お詫びと訂正

このたび発行した、2003年度会員名簿に誤りがございました。日付が「2002年6月現在」となっておりますが、「2003年6月現在」の誤りです。深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。また、記載事項（所属先等）に変更がございましたら、下記事務局までご連絡下さい。

■E-MAILアドレスをお知らせ下さい

電子メールによる情報提供やお知らせ等ができるように準備をしています。電子メールアドレスを下記学会事務局まで電子メールにてお知らせ下さい。

□学会事務局　仁連　孝昭　　〒522-8533　滋賀県彦根市八坂町2500滋賀県立大学環境科学部内
TEL：0749-28-8278　FAX：0749-28-8348
E-MAIL：niren@ses.usp.ac.jp

発行：水資源・環境学会
〒522-8533
滋賀県彦根市八坂町2500滋賀県立大学環境科学部内
電話 0749-28-8278　Fax 0749-28-8348

HP更新中！
http://www.soc.nii.ac.jp/jawre